

番号	学校名	部活動名	学年	氏名	感想
1	県立長崎北高等学校	写真部	2年	福田紘孝	今回、長崎くんちを観覧して感じたのは豪華さや優美さ、そして迫力です。今回の招待にあたって「くんち」についてもう一度学び直してみましたがとても長い間、受け継がれてきたものが21世紀の今も続いている事実に感動を覚えました。それと同時に私はある思いを抱きました。それは少子高齢化による踊り手の減少です。それが原因で、いくつかの踊町が踊りを奉納することが難しくなっているということも調べてわかりました。こうした状況の中で、大切なのは写真や映像や新聞などで伝統を保存していくことだと思いました。私たちの撮った写真が長崎の伝統行事である「くんち」を理解する上での一助になれば幸いです。そして、この写真を見て「踊り手になりたい」という人が出てくること、それに勝る喜びはありません。
2	県立長崎北高等学校	写真部	2年	橋詰陽那太	今回長崎くんちに招待されて、写真の撮影を忘れてしまうほどの迫力に圧倒されました。遮る物のない最前列で、踊り手の息づかいや担ぎ手の声を聞いて、これまでの準備や培ってきた伝統を肌で感じ、とても感動しました。今回くんちに招待された誰よりも、くんちの魅力が撮影できるようにベストを尽くせました。写真を見た人に少しでもくんちの魅力を感じてもらえたらうれしいです。
3	県立長崎北高等学校	写真部	1年	木下優紀菜	長崎くんち招待に参加したことで、より近くで演者さん一人一人の表情を見ることができて、くんちに出ている方々の思いや情熱が伝わってきました。川船や龍船の回転など迫力があり、光景が鮮明に思い出せるほど記憶に残っています。改めて長崎の伝統のすごさを感じました。今回のような活動を通して伝統を受け継いでいきたいです。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。
4	県立長崎北高等学校	写真部	1年	丸山怜花	初めて近くでくんちを見ることができていい経験をすることができました。私は保育園の時、龍踊りに参加したことがあったので、大人の龍踊りを見ることを楽しみにしていました。龍踊りの起源は雨ごとと聞いていたので、龍踊りの後半で本当に雨が降ってきた時、会場がひとつになったようで感動したのを今でも覚えています。また、龍踊り以外の演し物も初めて見て熱量を感じ、応援する気持ちになれました。これからも長崎の伝統を受け継ぎ、感動を届けてほしいです。
5	県立長崎工業高等高校	新聞部	3年	青野紗寿	栈敷席で演し物を見て迫力や出演者の息づかいなどを間近で感じられて貴重な体験ができました。制作した新聞にはすべての町について取り上げることはできませんでしたが、それぞれの魅力を十分に伝えられるように意識して作りました。解説をされていた楊さんや出演した生徒へのインタビューを通して、くんちは長崎の人にとってとても重要なイベントのひとつであると改めて感じました。
6	県立長崎西高等学校	写真部	2年	國分久菜・平河渚	今回はこのような機会をいただきありがとうございました。これまで長崎くんちを実際に見たことがありませんでした。はじめて至近距離で見ることができ、本踊りで舞う少女の艶やかさや、緊張感の中で大漁網を投げる少年の雄壮さにとても感動しました。この素晴らしい伝統芸能が後世に受け継がれるためにも、この写真に長崎くんちの熱気が伝わるといいなという思いを込めました。
7	私立海星高等学校	放送部	1年	岩村有紗	くんちの迫力に驚かされましたが、とても楽しむことができました。撮影場所が真正面からということもあり、撮影の仕事を忘れそうになるくらい見入ってしまいました。特に、演し物の装飾が煌びやかで、カメラ越しで見ると、さらに美しい装飾を見ることができました。途中、雨が降りビデオカメラをタオルで守りながら撮影したこともとても良い思い出です。どんな状況の中でも、おくんち出演者が笑顔で真剣に演舞を支えていたので、撮影を頑張ることができました。来年も機会があれば是非、参加したいと思いました。
8	私立海星高等学校	放送部	1年	木下玲菜	今回、私は、西濱町の「龍船」と「二胡演奏」に関わるお手伝いをするために、放送部が撮影している間は、出演側にいました。「長崎くんちに参加」し、さらに「映像編集」という形で関わることで、二つの異なる視点から「祭りを捉える」ことができました。放送部の仲間が撮影した映像を見返しながら、どのシーンを抽出すればその町ごとの演し物の良さが出てくるかを考えながら、タイムラインに並べていきました。出演者の皆さんに集まる拍手や、温かい励ましに支えられたときの気持ちを映像に起こすにはどうしたらいいかも考えました。そこで、ただ映像をつなぐのではなく、「どんなふうに見てもらいたいか」を意識して編集作業にあたりました。特に、動画のカットや音のつなぎ方にこだわり、祭りの臨場感が伝わるよう工夫しました。撮影当日は雨が降っていましたが、その雨もまた映像に独特の雰囲気をもたらし、編集しながらその魅力を再発見することができました。今回の経験を通じて、祭りを支える側の視点を持つことの大切さを実感しました。今後も、この経験を活かして、映像を通じて人々の心に残る作品を作っていきたいと思います。
9	私立海星高等学校	放送部	1年	宮崎喜隆	今回初めて踊町の演し物を生で見ることができました。龍踊や全体の掛け声など自分が思っていたよりも迫力があり驚きました。また、動きが俊敏でとても見応えはありましたが、素早い動きを予測できず、うまくカメラを回すことができなかったことが心残りです。事前に、演し物の見所を押さえておく反省点が残りましたが、その場に居合わせた観客の歓声と、おくんちを守る会の人たちの「モッテコーイ」というかけ声、そして、シャガリの音色など、おくんち気分をアップさせてくれる「くんち音」が私にとっては、編集作業をするときの、重要なポイントとなりました。ラストの終わり方が難しく、でも動画と写真（静止画）を合わせることで、残響音をだしたかったので、「もってこい長崎」のエンドタイトルと、制作は海星高校放送部のタイトルだしを、かけ声に合わせてだすところに力をいれました。次このような機会があったら、しっかり狙って撮影できるよう頑張りたいと思います。
10	私立活水高等学校	写真部	2年	柳田紅愛	初めてお旅所で観覧して、とても迫力を感じたし、観客が一丸となって声援を送っている姿に感動しました。なかなか光の調整や角度の調整が難しかったけど、自分が撮れる精一杯の写真が撮れたのでよかったです。少年が魚を取っているときの真剣な表情に注目して見てほしいです。
11	私立活水高等学校	写真部	2年	今里ひより	今回、伝統芸能の撮影という貴重な体験をさせていただきました。地域の伝統にこのような形で参加し、形に残せる活動ができたことを嬉しく思います。正面から見させていただいたので、町ごとに違った魅力や担ぎ手の方々の迫力ある演舞を感じることができ感動しました。今まで遠く感じていたおくんちに、より関心を持つきっかけとなりました。雨で大変なところもありましたが、忘れられない思い出になりました。最近では、私たちのような若い世代の伝統芸能離れの話も聞く中、たくさんの方々が参加している姿を目にしました。次世代を背負っていく人がいるということ、そのことへの希望や、明るい未来への期待を作品に込めました。
12	私立活水高等学校	写真部	2年	小岩楓奈	普段、お旅所で見る機会も、あんなに近い距離から何種類もの演し物を見ることがないので、とても貴重で楽しく撮影することができました。激しく動く演し物、落ち着いている演し物と様々で、調節しながら撮るのが難しかったです。展示作品には、龍踊りが本当に生きているかのような迫力を意識しました。
13	私立活水高等学校	写真部	1年	染さくら	初めて間近で奉納踊を見て、出演者の方々の熱意や躍動感のある動きを感じて圧巻させられた。展示作品には八幡町の守り神である鳩が2羽写っている。鳩は平和の象徴であるため、世界が平和になってほしいなという思いで撮りました。
14	私立活水高等学校	写真部	1年	古賀月菜	麹屋町の川船は、勇壮な船の動きと華やかな演出が魅力です。この写真を通じて、伝統を受け継ぐ町の誇りや、祭りに懸ける人々の情熱を感じていただければと思います。歴史と躍動感をぜひご覧ください。